

情報公開文書

「椎体形成術後隣接椎体骨折予測モデルの開発と検証」は、京都大学大学院医学研究科・医学部及び医学部附属病院医の倫理委員会の審査を受け、研究機関の長の承認を得た後研究責任者（京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻医療疫学分野 福原 俊一）の管轄のもとに行われます。

骨粗鬆症性椎体骨折は非常に頻度の多い骨折です。多くの方は保存的加療で治癒しますが、一部の方は治癒が遷延します。その際には椎体形成術（本邦では主にバルーン椎体形成術）の適応となります。椎体形成術は術後に隣接椎体の骨折を引き起こす可能性があり、隣接椎体骨折の予測は椎体形成術を行うかどうかの判断の際に有益な情報です。このようなことから京都大学大学院医学研究科医療疫学分野と全国各地の協力施設において椎体形成術後の隣接椎体骨折を予測する方法の開発と検証を行います。

本研究には 2012 年 4 月から 2018 年 6 月までに協力施設において椎体形成術を施行された皆さまのデータが用いられます。新たにご負担いただくものではありません。研究の結果は、個人が特定できない形で集計し統計学的処理をし、学会や論文発表ではその統計学的処理をした結果を発表します。対象者のプライバシーは十分に尊重され、特定される個人の情報が外部に公表されることは一切ありません。

皆さまにおかれましては、データ利用の目的と趣旨をご理解いただくよう宜しくお願い申し上げます。本研究に対してご質問のある方は下記の連絡先までご連絡ください。

<本分析の概要>

- ① 研究名：椎体形成術後隣接椎体骨折予測モデルの開発と検証
- ② 対象者：研究協力施設において椎体形成術を施行された方
- ③ 対象となる期間：2012 年 4 月 1 日～2018 年 6 月 30 日
- ④ 研究目的の概要：椎体形成術後の隣接椎体骨折を予測する方法を開発・検証します。
- ⑤ 研究方法の概要：上記の期間のカルテ・画像情報を用います。
- ⑥ 個人情報保護の仕組み：個人情報は全て研究番号等に変換され、分析を行う京都大学では皆さまの個人を特定しうる情報はいかなる形でも取り扱いません。

<本研究に関するお問い合わせ先>

京都大学大学院 医学研究科 社会健康医学系専攻 医療疫学分野
研究担当者 土方 保和
電話 075-753-4646

京都大学大学院 医学研究科 総務・人事室 利益相反掛
電話 075-753-4305
E-mail 060rieki-sohan@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp